

鹿児島県大隅半島東岸から得られた国内 3 個体目のカガヤキミゾイサキ

中村潤平¹・土田洋之¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ いおワールドかごしま水族館（鹿児島市）

JN: j-nakamura@ioworld.jp (corresponding author)

² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 30 March 2024

Revised 03 April 2024

Accepted 07 April 2024

Published 09 April 2024

DOI 10.34583/ichthy.43.0_1

Jumpei Nakamura, Hiroyuki Tsuchida and Hiroyuki Motomura. 2024. Third Japanese record of the Javelin Grunt *Pomadasys kaakan* (Perciformes: Haemulidae), distributed in the Indo-West Pacific, was collected from the east coast of Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 43: 1–4.

Abstract

A single specimen (346.6 mm standard length) of the Javelin Grunt *Pomadasys kaakan* (Cuvier, 1830) (Perciformes: Haemulidae), distributed in the Indo-West Pacific, was collected from the east coast of Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. In Japanese waters, *P. kaakan* has previously been recorded only two specimens from the west coast of Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture. Therefore, the present specimen represents the third record of the species from Japan.

カガヤキミゾイサキ *Pomadasys kaakan* (Cuvier, 1830) は、インド・西太平洋に広く分布し、全長 80 cm に達するイサキ科ミゾイサキ属魚類である (McKay, 2001). 本種は台湾や東南アジアでは重要な食用魚となっている一方 (McKay, 2001; Wada, 2019; 畑, 2022), 日本国内における確かな分布記録は極めて少なく、鹿児島県の薩摩半島西岸（南さつま市笠沙町）から 2 個体のみが報告されていた (Hata et al., 2015; 藤原ほか, 2020).

2021 年 12 月 6 日に鹿児島県の大隅半島東岸で 1 個体のカガヤキミゾイサキが漁獲された。本標本は本種の国内 3 個体目の記録となるためここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Hata et al. (2015) にしたがった。標準体長は体長または SL と表記し、体各部の計測はノギスを

用いて 0.1 mm の精度でおこなった。生鮮時の体色の記載は固定前に撮影された標本 (KAUM-I. 164405) のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、2021 年 12 月 6 日に鹿児島県肝属郡肝付町の高山漁港（高山漁業協同組合）に生きた状態で水揚げされ、鹿児島市の「いおワールドかごしま水族館」に搬入されたが、同年 12 月 11 日に死亡したため、冷凍後に鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) で標本として登録された。その過程で擦れなどにより体各部に損傷や変色が生じたため、標本の各鱗の軟条部の計測はおこなわず、漁獲後に生じたと考えられる体色の赤変は「色彩」の項で記載しなかった。また、生鮮時の写真は鹿児島大学総合研究博物館のデータベースに登録されている。

Pomadasys kaakan (Cuvier, 1830)

カガヤキミゾイサキ

(Figs. 1, 2; Table 1)

標本 KAUM-I. 164405, 体長 346.6 mm, 鹿児島県肝属郡肝付町波見 高山漁港地先（大隅半島東岸：31°21'N, 131°01'E）, 水深 6 m, 2021 年 12 月 6 日, 桁網, 高山漁港に水揚げされ, 小村祐介・木原徳彦・土田洋之が入手。

記載 計数値と体各部の体長に対する割合 (%) は Table 1 に示した。体は前後方向に長い楕円形。体背縁は吻端から背鰭第 3 棘起部にかけて上昇し、そこから尾鰭基底部にかけて下降する。頭部背縁は前鼻孔の上方付近で僅かに凹む。体腹縁は下顎先端から腹部起部にかけて下降し、腹鰭起部から臀鰭起部にかけて体軸と概ね平行、そこから尾鰭基底部にかけて緩やかに上昇する。眼は正円形で、瞳孔はやや前方が尖る楕円形。鼻孔は 2 対で近接し、眼の前縁の前方に位置する。前鼻孔は背腹方向に長い楕円形で、後縁に皮弁を有する。後鼻孔はやや背腹方向に長い楕円形。口は端位。口裂は比較的小さく、上顎後端は眼の前縁直下より前方に位置する。両顎の先端はほぼ同位。下顎腹面の



Fig. 1. Fresh specimen of *Pomadasys kaakan* from the east coast of Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 164405, 346.6 mm SL).



Fig. 2. Photograph of alive condition of *Pomadasys kaakan* in aquarium tank, taken on 10 Dec. 2021 (KAUM-I. 164405, 346.6 mm SL).

先端に2つの小孔がある。下顎腹面の正中線に前後方向に長い溝がある。両唇はやや厚い。鰓耙は棒状で細長い。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、鰓蓋後縁は円滑。体側鱗は櫛鱗で、両顎、眼と両鼻孔の周辺、および胸鰭基部は無鱗。側線は完全で、鰓蓋後部上方から尾鰭基底部にかけたの体側に位置する。背鰭起部は鰓蓋後端より後方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より後方にそれぞれ位置する。背鰭棘は第1棘から第3棘にかけて長くなり、第3棘から第11棘にかけて徐々に短くなる。背鰭第12棘は第11棘より長い。胸鰭基底上端は鰓蓋後端より前方、胸鰭基底下端は鰓蓋後端直下付近にそれぞれ位置する。腹鰭起部は背鰭起部より僅か

に後方に位置する。臀鰭起部は背鰭第3軟条起部直下付近、臀鰭基底後端は背鰭第9軟条起部直下付近にそれぞれ位置する。臀鰭第2棘は第3棘より太く長い。尾鰭は後縁が僅かに湾入する截形。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 体色は光沢を帯びる銀白色で、上半部は黄色がかかる。体側上半部には金色に近い褐色の小斑が散在し、不明瞭な横帯を多数形成する。側線部は黒色がかかる。頭部は金色で、腹面は色味が淡い。各鰭は黄色を帯びる銀白色。背鰭の鰭膜に小黒色斑が散在する。

分布 紅海とアフリカ東岸から日本、韓国、およびオーストラリアにかけてのインド・西太平洋に広く分布する

(McKay, 2001; Hata et al., 2015). 日本国内においては薩摩半島西岸（鹿児島県南さつま市笠沙町）からのみ記録されていたが（Hata et al., 2015；藤原ほか，2020），本研究により新たに大隅半島東岸（鹿児島県肝属郡肝付町）から記録された。

備考 記載標本は背鰭鰭条数が XII, 14，臀鰭第 2 棘が第 3 棘より長い，尾柄周囲鱗数が 20，下顎腹面の先端に 2 つの小孔がある，下顎正中線に溝がある，体色が銀白色，背鰭鰭膜に小暗色斑がある，および体側に不明瞭な小褐色斑が散在し，不定形の横帯を形成することなどの特

徴が McKay (2001), Hata et al. (2015), 藤原ほか (2018), および Heemstra (2022) が報告したカガヤキミゾイサキ *Pomadasys kaakan* の標徴と一致したため本種と同定された。

Pomadasys kaakan は Hata et al. (2015) によって薩摩半島西岸から得られた 1 標本 (KAUM-I. 67816, 体長 483.0 mm) に基づき日本国内から初めて報告され，標準和名カガヤキミゾイサキが提唱された。また，Hata et al. (2015) は *P. kaakan* の新参異名とされる *P. hasta* (Bloch, 1790) が過去に沖縄県から記録されていたが，それらはホシミゾイサキ

Table 1. Counts and measurements of *Pomadasys kaakan* from Japanese waters.

	this study	Hata et al. (2015)	Fujiwara et al. (2020)
	KAUM-I. 164405 Osumi Peninsula	KAUM-I. 67816 Satsuma Peninsula	KAUM-I. 142200 Satsuma Peninsula
Standard length (mm)	346.6	483.0	513.0
Counts			
Dorsal-fin rays	XII, 14	XII, 14	XII, 14
Anal-fin rays	III, 7	III, 7	III, 7
Pectoral-fin rays	17	17	17
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5
Pored lateral-line scales	48	49	48
Caudal-peduncle scales	20	20	20
Gill rakers	4 + 12 = 16	6 + 12 = 18	5 + 13 = 18
Measurements (%SL)			
Greatest body depth	33.6	30.8	33.3
Body width	17.2	14.5	15.0
Head length	34.0	32.2	32.5
Snout length	11.9	11.5	11.5
Orbit diameter	5.7	5.0	5.5
Pupil diameter	2.4	2.3	2.3
Interorbital width	10.6	9.2	9.8
Suborbital depth	8.0	7.2	7.4
Preorbital width	10.0	9.2	9.8
Caudal-peduncle depth	10.2	9.0	8.9
Caudal-peduncle length	23.8	22.0	23.5
Pre-dorsal-fin length	39.7	39.0	38.0
Pre-anal-fin length	70.4	67.7	68.0
Pre-pelvic-fin length	36.3	33.6	34.7
Upper-jaw length	10.3	8.5	10.8
First dorsal-fin spine length	2.8	0.9	2.0
Second dorsal-fin spine length	5.8	4.6	4.3
Third dorsal-fin spine length	17.7	11.2	14.0
Fourth dorsal-fin spine length	17.5	14.2	13.9
Fifth dorsal-fin spine length	15.8	12.3	12.2
Eleventh dorsal-fin spine length	6.3	4.3	4.9
Twelfth dorsal-fin spine length	7.8	6.5	7.0
Longest dorsal-fin soft ray length	damaged	10.9	11.4
Spinous dorsal-fin base length	31.2	29.2	31.5
Soft dorsal-fin base length	19.8	19.4	21.2
First anal-fin spine length	3.0	1.9	2.6
Second anal-fin spine length	15.9	11.7	12.3
Third anal-fin spine length	12.2	9.8	9.8
Longest anal-fin soft ray length	damaged	11.3	11.5
Anal-fin base length	12.8	12.4	12.5
Caudal-fin length	damaged	15.2	16.6
Pectoral-fin length	damaged	29.3	29.0
Longest pectoral-fin ray length	damaged	27.6	27.1
Pelvic-fin length	damaged	18.5	18.0
Pelvic-fin spine length	13.5	11.3	11.0

Pomadasys argenteus (Forsskål, 1775) との誤同定もしくは分布の根拠が乏しい記録であるとし、国内からの *P. kaakan* の確実な記録はなかったものと判断した。その後、藤原ほか (2020) は Hata et al. (2015) と同海域から得られた本種 1 標本 (KAUM-I. 142200, 体長 513.0 mm) を国内 2 例目の記録として報告した。カガヤキミゾイサキは国内において上記の 2 標本以外は得られておらず、大隅半島から得られた標本は本種の国内 3 個体目の記録となる。なお、Hata et al. (2015) により報告された個体は、黒潮による無効分散によって採集地点に出現したと考えられており (本村, 2018), 本研究で得られた個体も黒潮の流路に位置する大隅半島東岸に同様の由来で出現したと考えられる。

謝 辞

有限会社江川商店の小村祐介氏と高山漁業協同組合の木原徳彦氏には標本の入手にご協力いただき、鹿児島大学総合研究博物館のボランティアのみなさまと同博物館魚類分類学研究室のみなさまには標本の登録・管理にご協力いただいたため、深く感謝申し上げます。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環としておこなわれた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、文部科学省機能強化費「世

界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- 藤原恭司・伊東正英・本村浩之. 2020. 鹿児島県薩摩半島西岸から得られた国内 2 例目のカガヤキミゾイサキ, および過去 20 年間に同海域から新種・日本初記録種として記録された魚類リスト. *Nature of Kagoshima*, 46: 569–572. [URL](#)
- 畑 晴陵. 2022. イサキ科 Haemulidae, pp. 140–144. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Hata, H., M. Itou and H. Motomura. 2015. First Japanese record of the haemulid fish *Pomadasys kaakan* (Perciformes), from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Species Diversity*, 20: 115–120. [URL](#)
- Heemstra, P. C. 2022. Family Haemulidae – grunters and rubberlips, pp. 267–183. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) *Coastal fishes of the western Indian Ocean*. Vol. 3. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda. [URL](#)
- McKay, R. J. 2001. Haemulidae, pp. 2961–2989, pls. XIII–XV. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific*. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 本村浩之. 2018. 笠沙の魚類相 Ichthyofauna of Kasasa. 鹿児島大学総合研究博物館 *Newsletter*, 43: 2–7. [URL](#)
- Wada, H. 2019. Family Haemulidae, pp. 823–838. In Koeda, K. and H.-C. Ho (eds.) *Fishes of southern Taiwan*. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung.